edited by dr. masato mugitani
vol.5-no.7

# Bolted の研究

麦谷眞里

(まえがき)うーむ。これ49．95ドル(約5300円)です(写真809)。一度でも実演を観たら、マニアなら即座にタネがわかります。それでも欲しくなります。不思議な商品です。

写真809

驚いたことに、あるディーラーのこの手品の広告にはすでにタネの構造が書いてあって、しかもやり方まで書いてあります。49．95ドル(約5300円)というのは、タネの構造を知っても購買欲が衰えないよく考えた微妙に魅力的な値段なのです。

1. Bolted の構造

簡単に言うと、客のサインしたカードが2枚の透明な板の間に挟まれて、しかもボルトで固定された状態で出て来ます（前掲写真809）。不可能過ぎるので、2枚の透明な板が磁石でくっついていて、その間に客のサインしたカードを入れるのだろうとマニアなら誰でも思います。その通りなのです。透明な2枚の板はボルトの上下を付けたままで中央から外れます(写真810)。

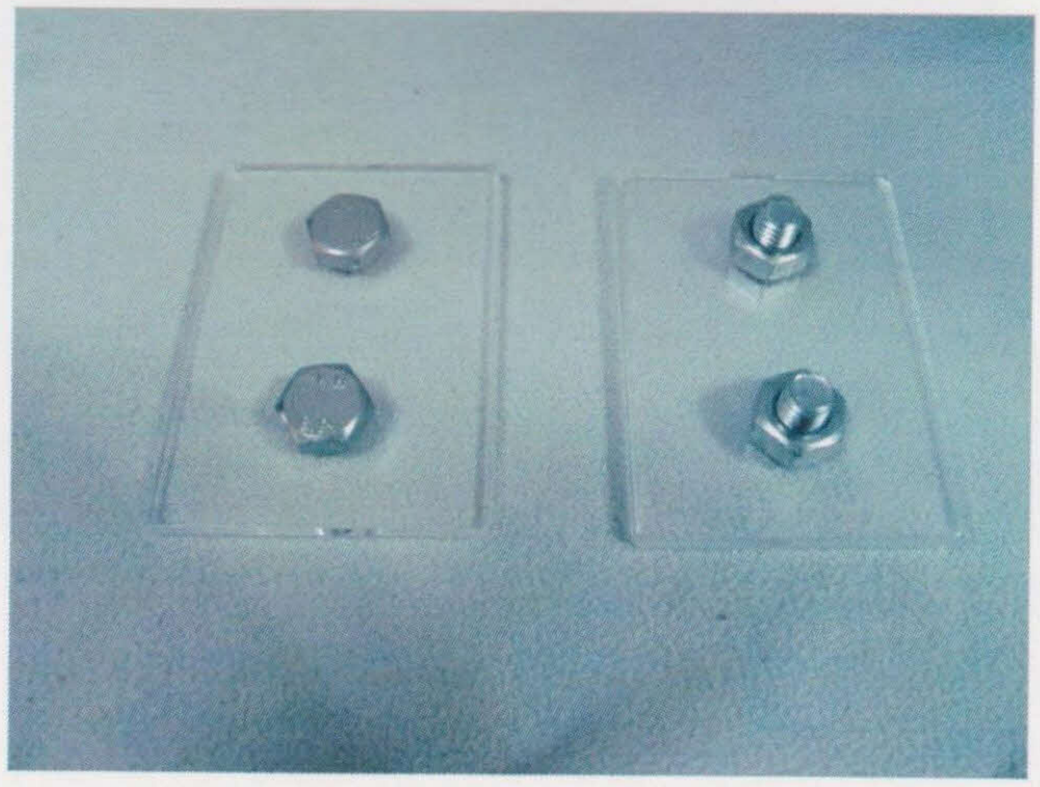

写真810

商品には、この2枚の透明な板をセットするためのカタパルトまで付いて来ます(写真811)。実は、慣れて来ると、このカタパルトは要らないのですが、あると安心なので、最初のうちは使ったほうがいいかもしれません。

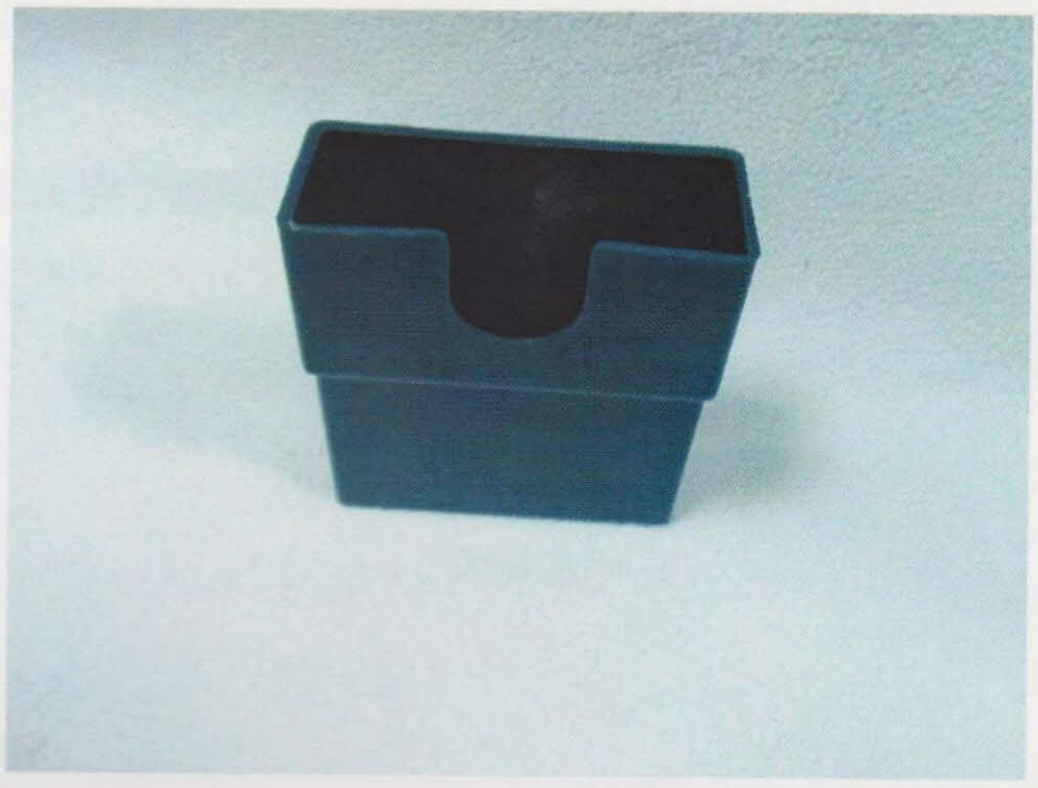

写真811

この手品の最大の欠点は、せっかく出現したサインされた客のカードを、ボルトとナットを外してアクリルの板の間から取り出して客に見せることができないことです。ボルトは外せないし、仮に外しても客のカードには穴が開いていません。それはそれで不思議な現象ですが、まさに"Bolted"で、ボルトで固定されていておしまいなのです。むしろ、"Bolted"というよりも"Sandwiched"と呼ぶ方が相応しいかもしれません。しかも、実演するには、カード・ケースや付属の黒い袋を使ったり、ギャンブラーズ・コップを使ったり、ギミック商品の割にはけっこう面倒

な技術が必要なのです。売価が100ドル(約10700円)だったら逡巡する人もいると思いますが、50ドルだったら自分ではとても作れないので買います。ただし、買っても、これをカード・トゥ・ザ・ワレットのように演じる人がいるとも思えません。解説のように、カード・ケースや付属の袋を使うやり方はとてもエレガントとは言えません。買った人はこれをどんなふうに演じるのでしょうか？それが私の素朴な疑問でした。

2. 私は複数カード当てのクライマックスに使う

この考えは、どちらかというと消極的な発想から出て来たものです。やってみるとわかりますが、カード・ケースの中に半分だけセットしておいたり、袋に入れて上着の内ポケットにセットしておいたりするのは煩雑過ぎて食指が動きません。しかも、これを単独で演じた場合、誰が考えたって、ボトルを外して、客のサインしたカードを確認するのが常道で、この手品の解説は、そこに目を瞑っているのです。ただ、演技の流れからして、もし、3人の客の選んだ3枚のカードを次々当てて、最後の3番目のカードがこれだったら、見せて終わりでも十分に通用します。3番目のカードが一旦は当たらないフェイントでもかければ、ますます有効です。

そのような総合的な観点から考えてみました。

[現象]デックの中から3人の客に自由に3枚のカードを選んでもらって、それぞれにサインしてもらいます。この3枚のカードをデックの中にバラバラに戻したあと、1枚ずつ上着の左右のポケットから出しますが、3枚目のカードが客のカードと異なっています。マジシャンは変だな？という感じで上着の左右のポケットを探しますが、最終的には、ボルトに固定された客のサインしたカードがポケットから出て来ます。

[準備]

①"Bolted"をカタパルトにセットしてそのまま上着の右ポケットに入れておきます(写真812)。

②サインペンは上着の左ポケットに入れておきます。

③使うデックと同じカード(なんでもいいです)を1枚上着の左ポケットに入れておきます。

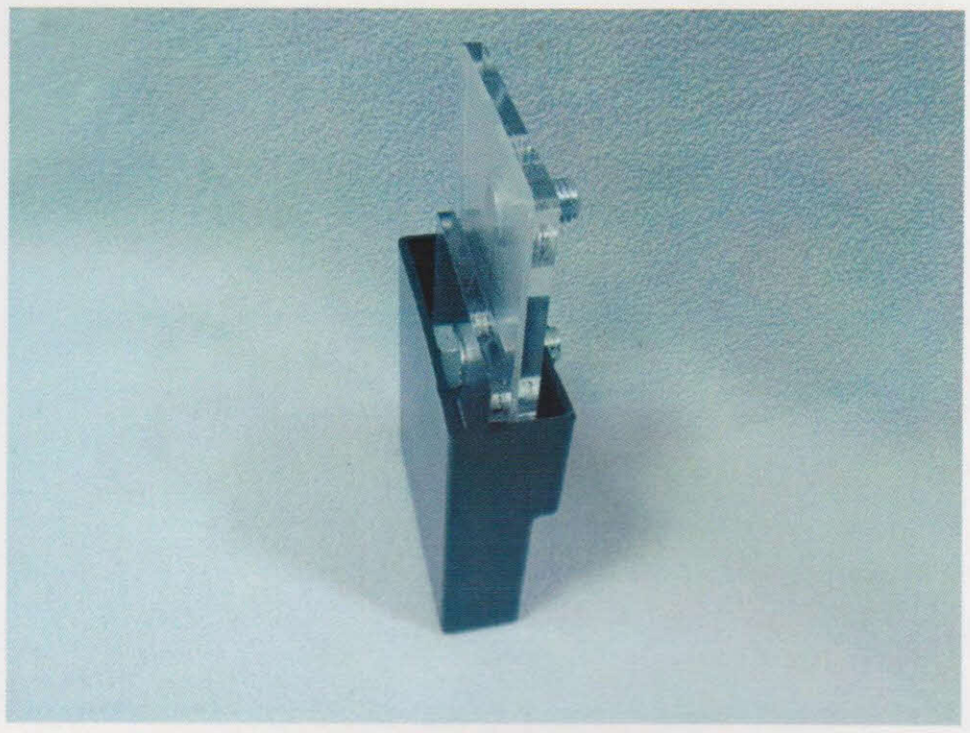

写真812

[やり方]

①デックをケースから出してジョーカーを2枚取り除き、残りを客に手渡してシャッフルさせます。最近、そんなマジシャンいないでしょう？箱はテーブルの上に置いておきます。シャッフルの終わったデックを両手の間に拡げ、3人の客に一枚ずつカードを選んでもらいますが、いきなりカードを引くのではなくて、まず、好きなカードを指差してもらい、客に、それでいいか確認してから抜き出してもらうようにします。客が、カードを替えると言ったら、もちろん応じます。合計3枚のカードが選ばれたことになります。それぞれの客に表を見て覚えてくれるように言います。

②「ときどき、覚えたトランプを忘れる人がいますので、今日は後で混乱しないように、トランプの表にそれぞれ大きく見えるようにサインをしてもらいます」と言って、デックを一旦テーブルの上に置いて、左手で上着の左ポケットからペンを取り出します。ペンを客に渡して、それぞれにサインしてもらいます。サインはできるだけ大きく書いてもらいます。

③ペンを上着の左ポケットにしまい、テーブル上のデックを取り上げます。デックを左手に裏向きにファンに開いて、3人の客のカードをバラバラにデックの中に差し込みます(写真813)。

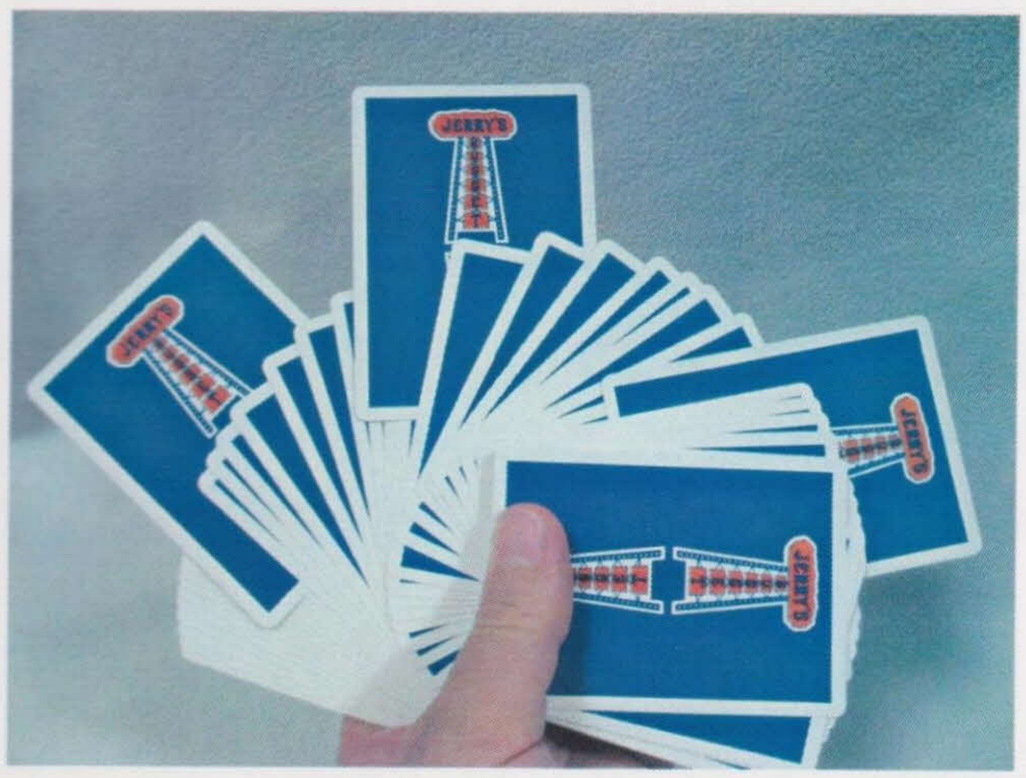

写真813

④デックを閉じて、マルチプル・シフトで、3枚ともデックのトップに持って来ます(写真814)。

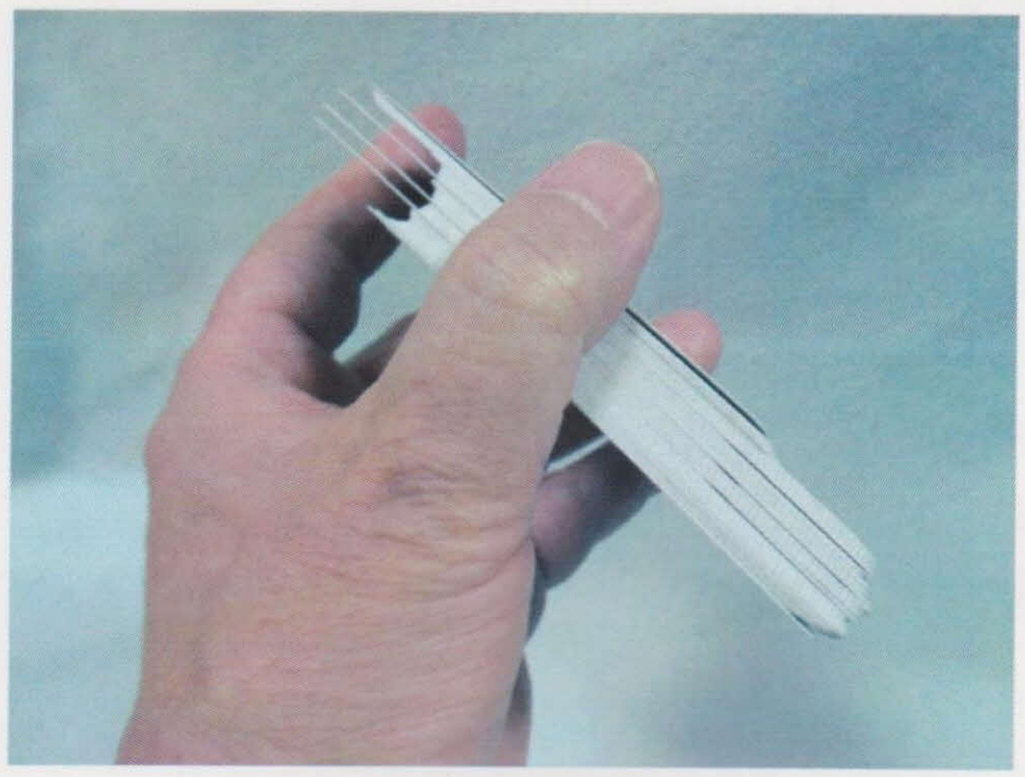

写真814

⑤オーバー・ハンドで軽くフォールス・シャッフルします。「3人のお選びになったトランプがどこにあるかは誰にもわからなくなりました」と言いながら、デックを両手の間に裏向きで一旦拡げ、トップから3枚目のカードの下に左小指でブレイクを作りながら閉じます。そのままトップの3枚を右手にパームします。まだ右手はデックを上から持ったままです。「こうやって息を吹きかけると」と言いながら右手のデックを口元に持ってきて息を吹きかけます。ただちに、デックを左手に渡して、右手は3枚パームしたまま、上着の右ポケットに入れます。「あなたのトランプがポケットに飛行します」パームしていた3枚のうち2枚をポケットに置いて、1枚だけを出して来て、表を見せないで裏向きのままテーブルの上に出します。マジシャンから見てやや左側です。表を見せていないので、客は、それが自分の選んだカードなのかどうか疑っています。

⑥「こうやって息を吹きかけると」と言いながら、またデックを右手で持って口元で息を吹きかけます。「お客さまの選んだカードがポケットに飛行します」と言って、デックは右手に持ったままで、空の左手を上着の左ポケットに入れて、予め準備しておいたカードを裏向きでテーブルの上に出します。これは、1枚目のカードの右側に置きます。

⑦「3枚目のトランプです」と言いながら、右手のデックを口元に持ってきて息を吹きかけます。デックをテーブル上に置いて、空の右手を上着の右ポケットに入れ、さきほど入れた残っている2枚のカードのうち、1枚を裏向きで出して来ます。この3枚目のカードは、テーブル上に置かれている2枚のカードの右側に3枚目として置きます(写真815)。

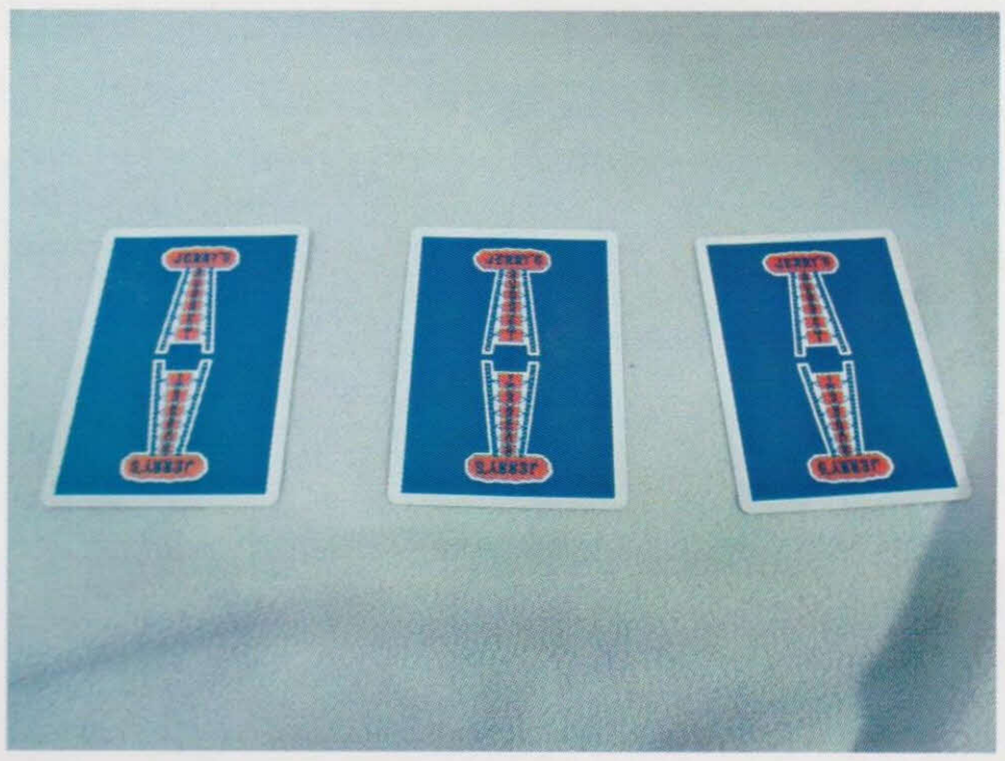

写真815

⑧これで、客の選んだ3枚のカードはすべて出そろったことになりますが、3枚とも裏向きですので、客は怪しんでいます。「それでは、1枚ずつ見て行きましょう」と言って、3枚目の右端のカードを右手で裏向きのまま取り上げます。そしてこのカードで一番左のカードを掬い上げて表向きにひっくり返します。サインがされていますので、「どなたのトランプですか？」と訊きます。客は怪しんでいたので、当たっていることに驚きます。

⑨続いて、このまま右手に持っているカードで真ん中のカードを掬い上げて表向きにしますが、このとき、メキシカン・ターンノーバーして、手に持っているカードを表向きにします(写真816)。結果として、客のサインしたカードが表向きになりますから、2枚目も当たっていたので再び客

は驚きます。

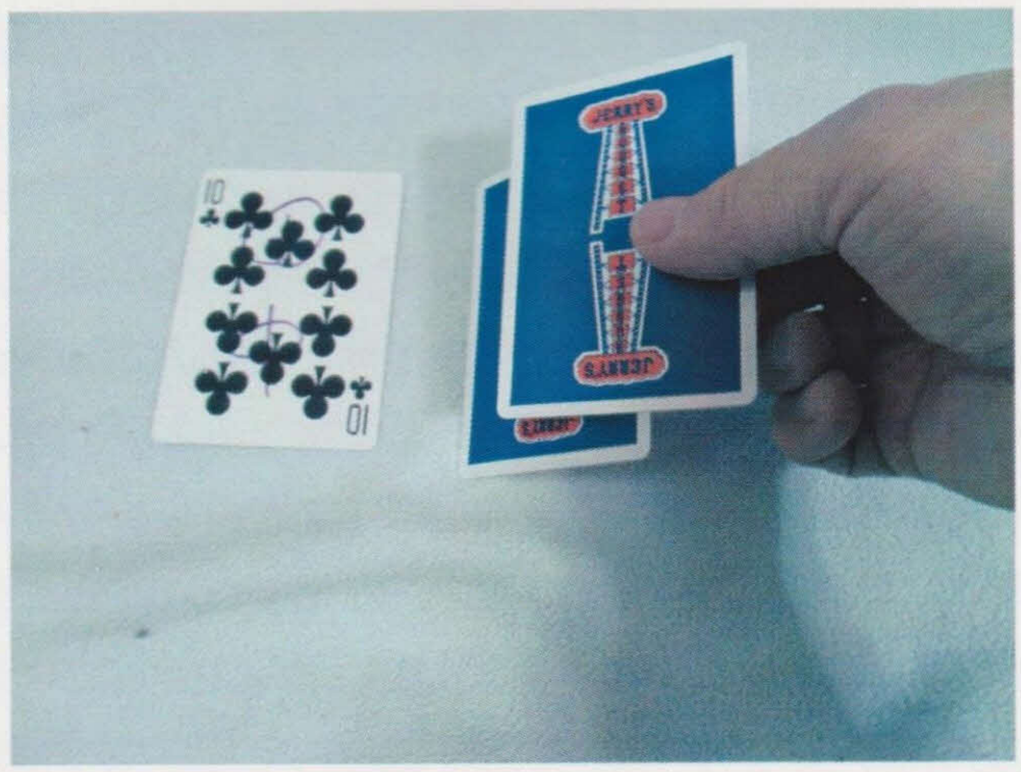

写真816

⑩最後に、残った右手のカードをゆっくりと表向きにして、「これが3枚目のトランプです」と言いますが、客が「違う」とか「サインがない」とか言いますので、マジシャンは、「え？」と驚いた様子で右手のカードをテーブル上に出し、ただちに空の両手を上着の左右のポケットに入れます。そしてカードを探す振りをしながら、右手は、残っていた客のカードをカタパルトの"Bolted"に入れて固定します。「ああ、ここにありました！」と言って、まず左手を空で出し、次いで、右手は"Bolted"に固定されたカードを出して両面をよく見せ、そのままサインが上になるようにして、ゴトッとテーブルの上に置きます(写真817)。これで3枚のカードが当たりました。

写真817

[コメント]

3人の客の選んだ3枚のカードをそれぞれ順に当てる演出をとっていませんが、もちろん、順に当てることもできます。その場合は、3枚のカードの順番が乱れないように注意することが必要ですし、当然ですが、"Bolted"で出てくるのは3番目に引いた客のカードになります。3人の客のカードをポケットから出してくるとき、やや無造作に、「これが選ばれたトランプです」と言いながら、投げ出すような形でテーブル上に裏向きで置くと、最後の"Bolted"の伏線になります。

# 2つの「ALTOIDS」

麦谷眞里

（まえがき）“ALTOIDS”というのは、アメリカ合衆国で売られているミントやシナモン・フレーバーのお菓子の商品名です。錫製の四角い金属缶に錠剤のようなお菓子が入っています。大きな缶と小さな缶とがあり、いま取り上げているのは小さな缶のほうです(写真818)。

写真818

日本では、「成城石井」に売っているという情報がありましたので、私の家の近所の「成城石井」2店に行ってみましたが売っていませんでした。広尾の「ナショナル麻布マーケット」にはさすがに売っていましたが、それは大きなサイズのもの(写真819の左側)で、いま、手品に使おうとしている小さなサイズのタイプではありません(写真819の右側)。ということは、日本では、この小さいタイプのほうは入手が困難かもしれません。百円玉は大きさの参考のためです。

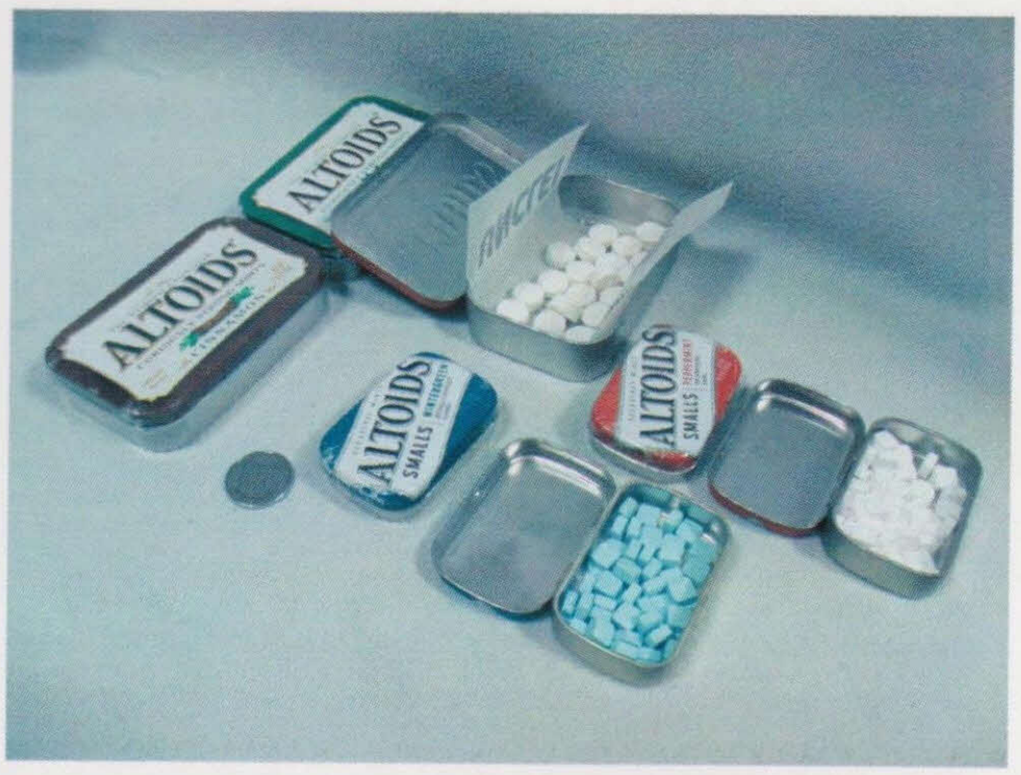


写真819

写真818の小さいタイプは、私がロスアンジェルスから輸入したものです。この小さな缶の大

きさが手頃なのか、期せずして、二人のマジシャンがこの缶を使った手品商品をそれぞれ売り出しました。Daniel Garcia の"MINT BOX"と Scott Alexander の"TINaciuous"です。今回のタイトルの「2つの"ALTOIDS"」というのはそういう意味です。ちなみに"MINT BOX"の売価は60ドル(約6400円)で、"TINacious"のほうは49．95ドル(約5300円)です。

現象はどちらも同じで、客のサインしたカードが、最初からテーブル上に置いてあった小さなお菓子の金属缶(ALTOIDS)から四つ折りになって出て来るというものです。現象を書いただけで、マニアの方は、ああ、あれか、と思われることでしょう。かつて、フレッド・カップスが彼のレクチャーで、サインされた客のカードが四つ折りになって指輪のケースから出て来る手品を解説して以来、この手品はマジシャンたちの心を虜にしてしまいました。以後、夥しいバージョンが発表されているだけでなく、まさに手を変え品を変え、ジョン・ケネディやデヴィッド・リーガルによっても商品化されて来ました。多くのマジシャンが苦心しているのは、ケース(どんなケースにしろ)が最初や最後に空であることを見せる工夫です。フレッド・カップスの原案では、最初に指輪のケースが空であることを見せることはできませんし、カードを出した後で指輪のケースが空になったことも見せられないからです。実際の演技では、実はまったくそのようなことをする必要はないのですが、その点を解決したいと思って多くのマジシャンが独自の案を出して来たのは間違いありません。私自身にも、かつて masquerade で解説した小さなチョップ・カップを使ったホーミング・カードのクライマックスの作品があります。それでも屋上屋を重ねるように今回、aficionado でこのテーマを取り上げたのは、従来のやり方を知っているマニアでもひっかかるような道具立てだったからです。特に、Scott Alexander の"TINacious"は、まさに、この手品を知っているマニアをターゲットにしたら面白いと彼自身が言っているほどです。

1．MINT BOX

[タネの構造]

①四つ折りになったカードと金属缶の内側の素材とが組み合わさったフラップが缶の中に組み込まれています(写真820)。

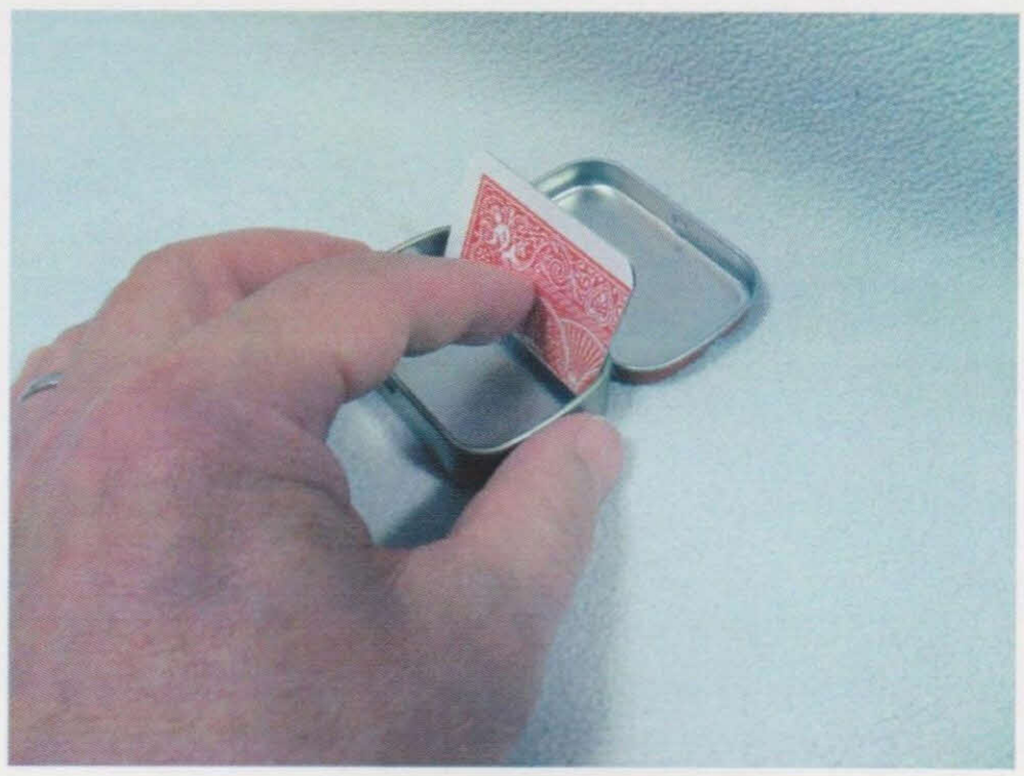

写真820

②この四つ折りカードと缶の内側の素材とは一種のスプリングになっていて、カードの一部をずらすと、スプリングが効いてひっくり返って缶の素材になりますから、一瞬のうちに缶は空になったように見えます(写真821)。

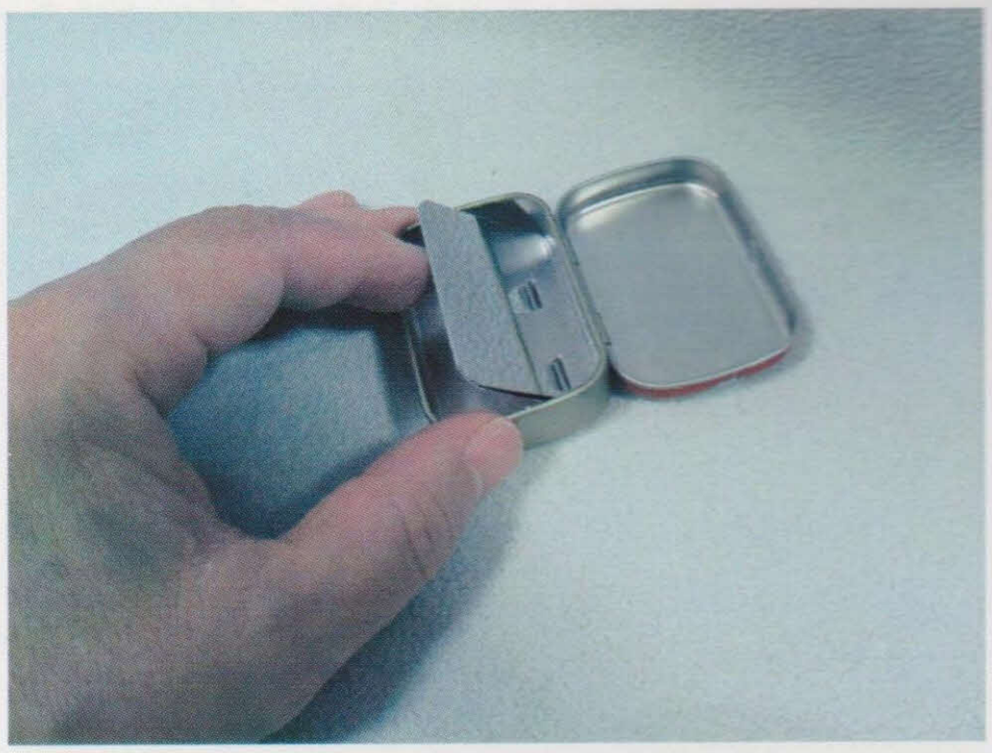

写真821

[使い方]

①ギミックの構造を述べただけでも使い方がわかると思います。左手に客の四つ折りカードをパームして、缶を開けて中のカードを示し、これを左手に空ける動作で缶をギミック・フラップで空にし、同時に左手を開いてパームしていた客のカードを見せます。これが従来のやり方で、これでも缶は空になったように見えますから、十分に効果はありますが、Daniel Garcia は、もっと別のやり方をいろいろ提唱しています。

②そのうちのひとつは、缶をテーブル上に置いたままで右手の指先で中のカードを取り上げて、左手に渡したように見せるものです。具体的には、テーブル上に置かれた缶の蓋を開けて、右手の指先でカードを取り上げるときに、ギミック・フラップをひっくり返します(写真822)。右手は何も持っていませんが、あたかもカードを取り上げたような動きで、ただちに左手にカードを渡す仕草で同時に左手を開くとカードがあるというわけです。

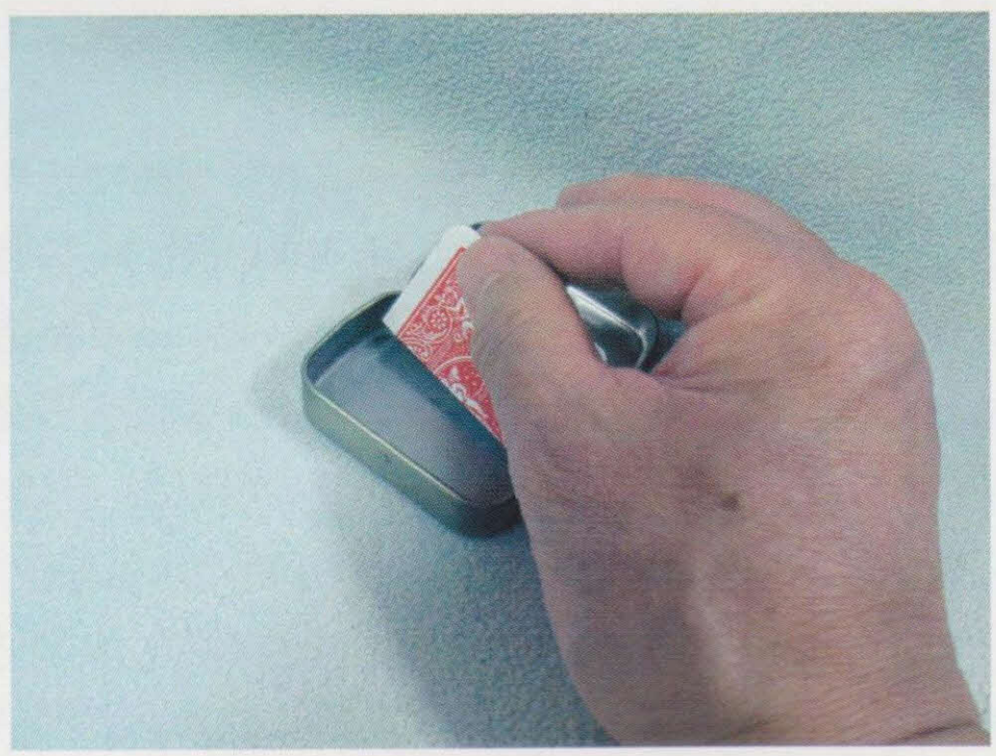

写真822

③Daniel Garcia は、このほかにもいくつかの使い方を解説しています。缶を開けて、四つ折りのカードが見えたとき、マニアは、ああ、あれか、と思いますので、その缶の中のカードを直接右手で取り上げて左手に渡す動きはマニアを驚かせるには十分です。右手の指先で、カードを取り上げたとき、ほとんど同時に缶は空に見えますので、缶の中にあったカードを取り上げていないと思う人はまずいません。よくできたギミックです。60ドルの価値はあります。

2. TINacious

お気付きのことと思いますが、"Altoids"の缶の素材は錫でできていて、錫を意味する英語のTIN(錫)を洒落て、"tinacious"という商品名にしたわけですが、正しい綴りは、"tenacious"で、意味は、「頑強な」とか「粘り強い」という意味の英単語です。

[タネの構造]

"Altoids"の小さなタイプの缶の短端の一部を四つ折りにしたカードが入るように刳り抜いてあります(写真823)。

写真823

そうなのです。この小さな缶の短端が四つ折りにしたカードを挿入できるように刳り抜いてあるだけなのです。小さいころ、手品の広告を見て、郵便でそれを注文して(そのころ「通販」という言葉はありませんでした)小包が届くとドキドキして開けたら、タネらしいものが何も入ってなくて、がっかりしたことが一再ならずありました。この、"TINacious"も、届いたときは、穴が刳り抜いてあることを知りませんでしたから、ただの空の缶が届いたと思いました。これが49．95ドル(約5300円)か？と一瞬思いましたが、待て待て、考案は Scott Alexander だぞ、製作して販売しているディーラーは、Penguin Magic だぞ、と冷静になって、まず解説動画を観ることにしました。

結論から言います。49．95ドル(約5300円)は安いくらいです。ギミックの缶やアイデアや現象もさることながら、この動画の中で Scott Alexander が解説しているカードを四つ折りにする「C フォールド」というやり方は、彼のオリジナルで、これだけで49．95ドルの価値がある技法です。これに、マニアでもひっかかる「缶の中から客のサインしたカードが出て来る」のですから、実に、49．95ドルはお得な値段だったのです。

[使い方]

①「C フォールド」を覚えましょう。四つ折りにしたいカードはデックのボトムにあります。デックを左手に裏向きで持っています。右手は上からかけています。左手の中指・薬指をボトム・カードの右長端にかけて、人差指と小指をガイドにしながら、縦方向に2つ折りにします(写真824)。

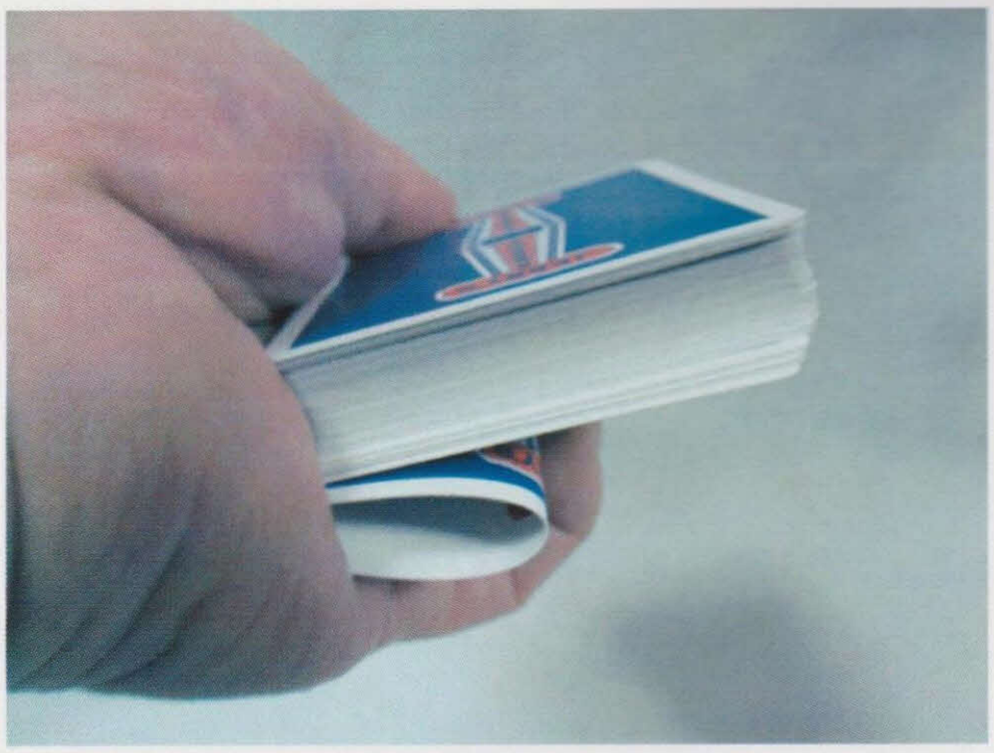

写真824

②デックをこのまま少し前に出します。すると縦向きに2つ折りになったボトム・カードが少し手前に突き出て来ますが、客からはこの部分は見えません(写真825)。

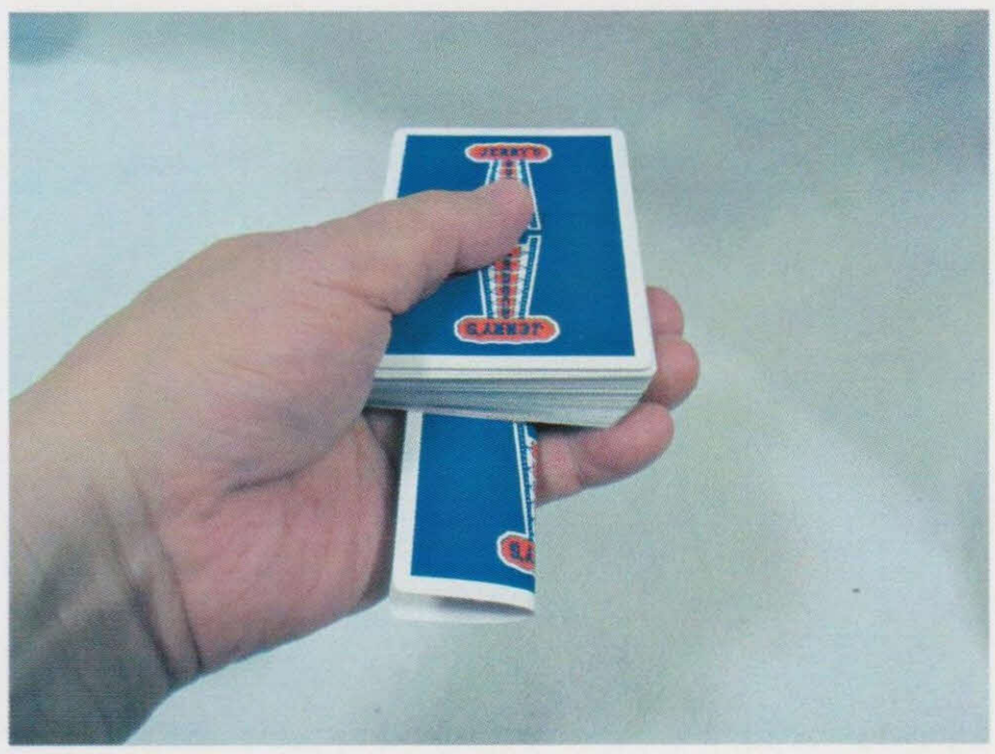

写真825

③手前に突き出ている2つ折り部分が、目分量でカードの半分くらいなるようにします。バイスクルのようにカードの中央がわかりやすいカードなら2つ折りになったボトム・カードでも半分の位置がわかりますのでそこまで突き出します。これは次の4つ折りにする動作のためですから、「目分量」と書きましたが、実際に練習してみて、突き出す程度を覚えます。

④縦に2つ折りになったボトム・カードが一定程度手前に突き出したら、このカードの下に右親指を下から当てて、上に折り上げます(写真826)。デックの厚みを考慮してきちんと4つ折りに折り上げるようにします。この折り曲げられたカードの状態を、右方向から見ると、アルファベットのCに見えるので、これを「Cフォールド」と呼ぶのです。

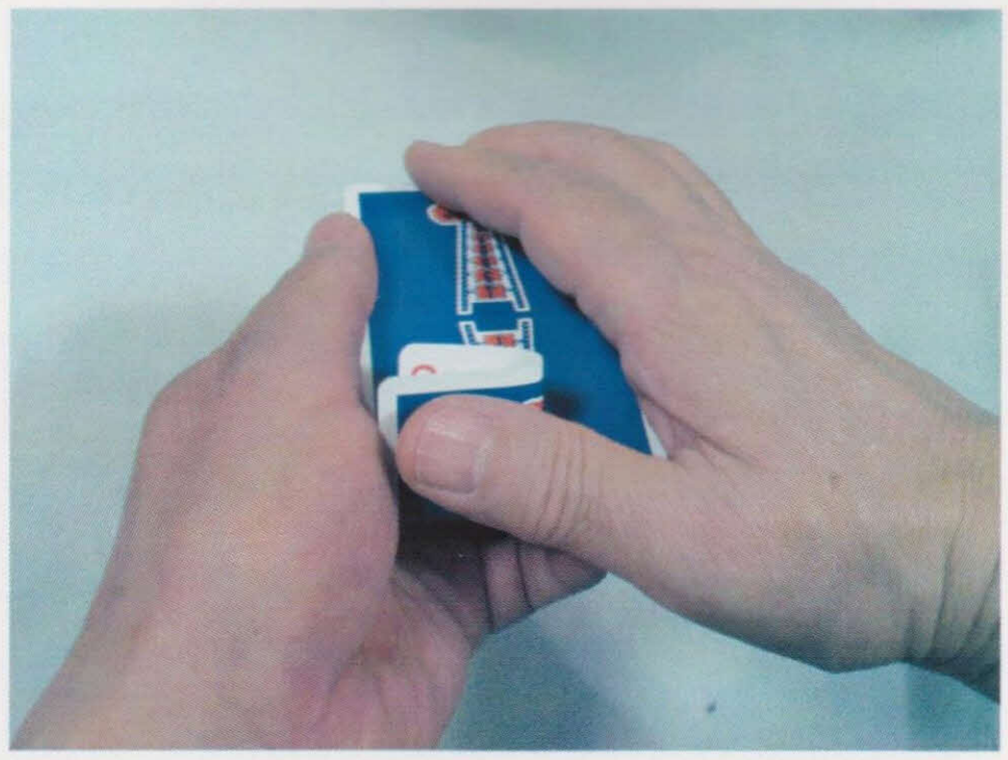

写真826

⑤四つ折りにしたら、デックをちょっと前に出して持ち上げて、折り曲げられたカードをボトムに戻してカバーします。ボトムになった折り曲げられたカードは、デックのボトムで指先で押して完全に4つ折りにします。

⑥ここでデックを裏向きに拡げ、「あなたのカードはどこかにあります」などと言いながら、ボトムの四つ折りのカードを指先で180度回転させます。つまり、四つに折った山の部分を缶に入れやすいように客側にするのです(写真827：右手の拡げたファンは省いてある)。

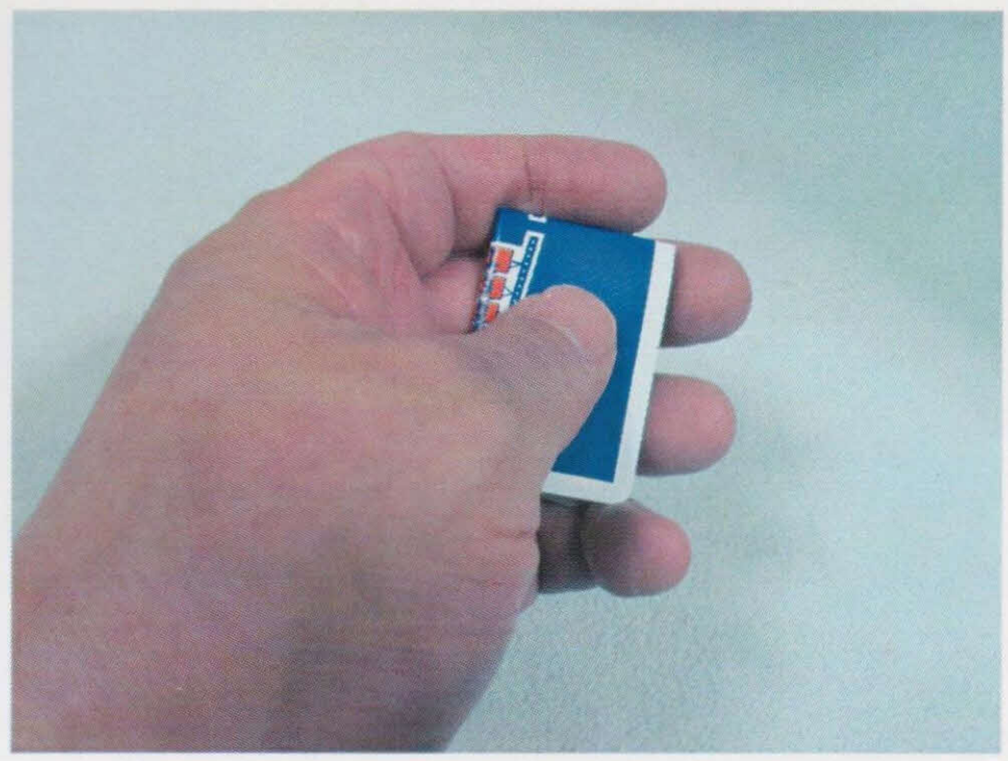

写真827

⑦デックを左手に持ち換え、右手は四つ折りカードをフィンガー・パームして、そのままテーブルの上の缶を取り上げます。取り上げ方は、右手を上からかけて缶を取り上げ、そのまま缶の蓋が上を向くようにして右手の四つ折りカードの上に置くのです。結果として、缶の底に四つ折りカードが隠れて見えないのですが、この光景は一瞬ですから、ここは神経質になる必要はありません。ただちに右手指先をやや上方に上げながら、右親指で缶を指先側に押し上げます。すると、四つ折りカードがちょうど缶の刳り抜かれた穴のところに位置して来ます。そこで、右小指を使って缶の中に四つ折りカードを挿入します(写真828)。入れてしまったら、まだ安心しないで、缶を右手の指先で180度回転させて、穴が客側を向くようにして、その短端を右手の

人差し指・中指で隠して、客に差し出します(写真829)。

写真828

写真829

⑧缶の蓋を開けます。あるいは客に開けさせてもかいません。缶の中にカードが四つ折りになって入っているので客は驚きます(写真830)。

写真830

⑨缶を写真830のような状態で持って、中のカードを客自身で取り上げさせます。ここがマニアのびっくりするところです。もちろん、このカードは客がサインしたカードです。

[コメント]

上の解説は、"TINacious"の骨格だけを説明したもので、Scott Alexander は、これをひとつの「手順」として解説しています。しかも、それを実際の聴衆を相手に演じている映像も広告動画で観ることができますから、購入されなくても「手順」の現象を観ることはできます。こんなに楽しそうにお客さんと一体となって手品を演じるマジシャンは少ないです。すでに書きましたが、この商品は、穴の開いている缶を買うのではありません。Scott Alexander は、解説の中で、いろんなカード技法や他の見せ方などについても言及しています。特に、缶を空にしておかないで、少しのミントのタブレットを予め入れておくのは有用なアイデアです。そのために、冒頭で"Altoids"に大きな缶のあることを示しておきました。この手品に使う小さな缶に入っているタブレットでは、刳り抜いてある缶の穴から外に落ちてしまうのです。そこで、大きな缶のほうのやや大きめのタブレットを使うと、缶の穴から微妙に落ちないで済みます。幸い、大きい方の缶の"Altoids"は日本国内で入手できますから、缶にタブレット(カードを挿入するのに邪魔にならない程度で2個ほど)を入れた演出を好む方は、それが可能です。Scott Alexander の解説では、全然別の大きめのミント・タブレットの名前を言っていましたが、その必要はありません。また、解説では、缶の中のタブレットの位置まで注意してありますから、ぜひ、購入されて、すべての解説をご覧になることをお勧めします。また、積極的にマニアをひっかけたい人は、缶を右手に持って、四つ折りカードを挿入してしまったら、同時に左手はデックをテーブル上に置いて、あたかも四つ折りカードをフィンガー・パームしているような形でテーブル上に出します。そうすると、この時点で、観ているマニアは、100パーセント、「例のあれだ」と思います。そこで、おもむろに、左手を開いて、空であることを見せながら、この左手で缶の蓋を開け、右手を差し出して、客に自分で中の四つ折りカードを取り出させるのです。マニアの驚きは一様ではありません。

## 手品の賞

最近、日本のマジシャンで、肩書や紹介に、世界大会やラスベガスの大会で賞をもらったとか、何位だった、という人がいっぱい出て来ますが、手品は演技を見れば上手いかどうかはすぐにわかりますから、そこが手品の賞の悲しいところです。ランス・バートンの演技を見れば、誰でも、このひとがグランプリだったのだと思います。ちなみに、デビッド・カッパーフィールドもクリス・エンジェルもその種のコンテストの賞を受賞していないのは皮肉です。

これは、aficionado の Vol.5-No.7 です。
郵便の送付先:〒145－0061　東京都大田区石川町2－33－1－904　マスカレイド
E メール・アドレス:masqpart4@aol.com
これは、限定100部のうちの08／100です。　(2020年9月)